

## 『別冊整形外科』 No. 89 「脊柱靱帯骨化症 up-to-date」

脊柱靱帯骨化症の代表である頸椎後縦靱帯骨化症 (OPLL) は、1960年に月本によりはじめて剖検例の報告がなされ、本邦を含む東アジアでの罹患が多いため、これまで多くの研究がアジアを中心に行われてきました。1975年に頸椎 OPLL が厚生省の特定疾患に指定され、調査研究班が設けられた結果、研究活動が活発化されるとともに組織化された研究も行われるようになりました。

『整形外科』2018年5月増刊号「脊柱靱帯骨化症研究の進歩」でも特集が組まれています。それから7年が経過し、また新しいエビデンスが多数得られてきています。一方でまだ原因は完全に解明されておらず、未解決の問題も多いのが現状です。本号では、OPLLの基礎的な研究、頸椎 OPLL、胸椎黄色靱帯骨化症 (OYL) に加え難治例の多い胸椎 OPLL の臨床、骨化症候群の一部ともとらえられるびまん性特発性骨増殖症 (DISH) についても含めたいと思います。「脊柱靱帯骨化症 up-to-date」としてぜひご寄稿いただけましたら幸いです。

## 募集細目 (例)

## I. 基礎的研究

1. ゲノム関連研究
2. ゲノム診断
3. 病理組織学的研究
4. 疾患関連遺伝子、機能解析研究
5. 他遺伝疾患との関連
6. 異所性骨化研究 (全般)
7. その他

## II. 脊柱靱帯骨化 (症) の疫学・病態

1. 疫学 (手術例レジストリを含む)
2. 発症のメカニズム (自然経過・外傷・その他)
3. 脊髄損傷
4. 転倒の状況
5. 靱帯骨化と肥満・糖代謝異常・成人病関連
6. 靱帯骨化と栄養
7. 靱帯骨化と力学的要素
8. 有限要素解析研究
9. 他遺伝的疾患との関連
10. 後縦靱帯骨化症 (OPLL) のバイオマーカー
11. その他

## III. 画像研究

1. 画像分類
2. 全脊椎骨化画像研究 (全般)
3. 各脊柱靱帯骨化の関連
4. OPLL とびまん性特発性骨増殖症 (DISH) との関連
5. 骨化形態と臨床症状
6. 脊髄圧迫、輝度変化と臨床症状・日常生活動作 (ADL)
7. 脊柱アライメント・バランス
8. 検診関連研究
9. 骨化進展評価
10. 骨密度
11. 動的評価 (MRI・CTM)
12. その他

## IV. 骨化症の評価・診断

1. 脊髄症
2. 神経根症
3. 筋萎縮症
4. 神経障害スコア

5. 患者アウトカム
6. 痛み・しびれの評価 (patient and public involvementを含む)
7. Minimal clinically important difference (MCID)
8. 電気生理学的検査 (伝導速度・筋電図・脊髄誘発電位・脊髄磁場測定)
9. 拡散テンソル画像評価・functional MRI
10. 機械学習
11. その他

## V. 治療

1. 保存療法
  - 1) 内服治療
  - 2) 装具療法
  - 3) 理学療法
  - 4) 注射・ブロック療法
  - 5) 脊髄刺激療法
  - 6) その他
2. 手術療法
  - 1) 頸椎 OPLL
    - ①前方法
    - ②後方除圧
    - ③後方 (除圧) 固定
    - ④術式選択
    - ⑤成績不良因子
    - ⑥併存症との関連
    - ⑦合併症
    - ⑧術中モニタリング
    - ⑨術中画像支援ツール
    - ⑩頸椎性脊髄症 (CSM) との比較
    - ⑪筋萎縮症の成績
    - ⑫その他
  - 2) 胸 (腰) 椎 OPLL
    - ①前方法
    - ②後方除圧
    - ③後方 (除圧) 固定
    - ④術式選択
    - ⑤成績不良因子
    - ⑥合併症
    - ⑦術中モニタリング

⑧術中画像支援ツール

⑨その他

## 3) 胸椎黄色靱帯骨化症 (OYL)

①後方除圧

②後方 (除圧) 固定

③術式選択

④成績不良因子

⑤合併症

⑥術中モニタリング

⑦術中画像支援ツール

⑧その他

## VI. 術後

1. 術後評価・アウトカム
2. 術後の転倒
3. 神経障害性疼痛
4. 術後の内服治療
5. 復職状況
6. 術後リハビリテーション (ロボットリハビリテーションを含む)
7. 再発・再手術
8. 術後の骨化進展・縮小
9. 予後予測 (機械学習含む)
10. その他

## VII. びまん性特発性骨増殖症 (DISH)

1. 疫学
2. 画像研究
3. 脊椎関節炎および類似疾患との鑑別
4. DISH 関連骨折
  - 1) 疫学 (頻度、骨折タイプ、脊髄損傷)
  - 2) 保存療法 (臨床成績)
  - 3) 手術療法
  - 4) 術式 (体位、固定方法、スクリュウ設置手技、セメントスクリュウ)
  - 5) 手術成績
  - 6) 合併症
  - 7) 術式選択
  - 8) その他
5. DISH と腰椎変性疾患
6. その他

※上記募集細目以外でもぜひご応募ください

『整形外科』編集委員会

ご応募くださる方は、タイトルおよび要旨 (1,000字以内) を、2025年8月末日までに下記『整形外科』編集室・『別冊整形外科』係宛にお送りください (E-mailでも受け付けます)。2025年9月末日までに編集委員会で採否を決めさせていただきます。その後ご連絡いたします。なお、ご執筆をお願いする場合の原稿締め切りは採用決定から2ヵ月後 (2025年11月末日)、発行は2026年4月予定となります。

送付先: ☎ 113-8410 東京都文京区本郷三丁目42番6号

株式会社南江堂 『整形外科』編集室・『別冊整形外科』係

(TEL 03-3811-7619 / FAX 03-3811-8660 / E-mail: pub-jo@nankodo.co.jp)